

巻頭言

本プロジェクトは、「組織行動の基礎的研究 ―経営学、社会学および歴史学からの比較研究―」と題して2016年度に国際経営研究所に申請し、研究プロジェクトの一つとして採択されたものである。このプロジェクトの目指すところは、個人行動とは区別された集合体としての組織行動を、経営学、社会学および歴史学のそれぞれの視点から分析して比較研究することで、ビジネスを含む組織に関する基本的な理解を深めることにあった。参加メンバーは、後藤伸（本研究所所員）、李貞和（同上）、小森谷浩志（客員研究員）、平田沙織（同上）、萩原富夫（同上）、吉田隆（同上）、それに照屋行雄（本研究所所員）の7名で発足した。プロジェクト責任者には照屋所員が就任した。

メンバーによる共同研究会は、各人の問題意識に基づき文献紹介を月1回のペースで輪番制により進められた。これにほぼ二カ年を費やし、最終年度となる3年目からは各人の研究ペーパーの作成およびその検討に入った。研究期間の途中、一部メンバーが勤務先の都合や本務校の決定があって研究会参加が難しくなり、またその他メンバーについても学内的な用務が積み重なり、今回残念ながら研究成果については全員分を揃えるということには至らなかった。しかしながら、共同研究会での質疑応答や討議は、各人の研究課題の深耕に今後活かされると思われ、その成果が期待される。

今回の研究成果として提出された研究論文は三篇である。たまたま三篇とも、おもに歴史学からのアプローチを専門とするメンバーの論攷であり、いずれも倫理問題に関係するものであった。そのため、これらを編んで上梓するにあたり、プロジェクト・ペーパー名を『経済活動と倫理』と題することにした。プロジェクト関係者の了解をお願いしたい。もとより、それぞれの論攷がこの題目名に相応しい内容の研究水準に達しているかは、読者諸賢の判断を仰ぎたい。忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

本研究プロジェクトを代表して
照屋行雄